**北大生協2022年度 第４回定例理事会　発言録**

1　日時　2022年9月21日（水）　18:15～20:30

2　場所　北大生協会館店3階・会議室　（札幌市北区北8条西7丁目）

以下の理事は、webテレビ会議システムにより出席した。

伊藤美香　理事（自宅、札幌市東区）

今村 央　理事（自宅、北海道函館市）

3　出席役員

理事総数　　21名中15名出席

（出席理事）坂爪浩史理事長、小助川誠専務理事、鏡秀隆常務理事、林忠一常務理事、井崎貴皓常務理事、

田代直也常務理事、金川眞行理事、小篠隆生理事、伊藤美香理事、今村央理事、

髙木暉馬理事、石本万象理事、野呂香綸理事、逸見京花理事、羽木康祐理事

（注：webテレビ会議システムにより出席した方を含みます）

（欠席理事）原拓也常務理事、小松慎太郎常務理事、小川美香子理事、コリー紀代理事、奥山莉子理事

　　　　　　　　　三澤建成理事

監事総数　　5名中5名出席

（出席監事）芳賀永監事会議長、岡野泰樹監事、浦田翔吾監事、黒川昇悟監事、寺西ほの花監事

（注：webテレビ会議システムにより出席した方を含みます）

（欠席監事）なし

（オブザーバー）嶋崎聡（大学生協事業連合北海道地区管理統括部長）、齋藤店舗事業部部長、

神田マネージャー、百石マネージャー、村田礼二マネージャー、片木圭二理事会室室長

なお、議事に先立ち理事会参加者全員が、一堂に会するのと同等に充分な意見交換ができることを相互に確認した。

論議～新学期活動について

（金川）北大で契約している包括ライセンスのインストールサポートはしているのですか？

（齋藤）プレミアムサポートとは別に、セットアップ講習会というのを設定していて、そこでインストールサポートをしています。（金川）情報基盤センターでは、大学職員がサポートをしているようですが、生協がサポートできれば良いと思いました。

（齋藤）今後、情報企画課と学務企画課と打ち合わせをする予定です。

（金川）ミールプランは、ショップでパンなどを購入することは可能なのですか？

（齋藤）内製弁当は購入することが可能です。

（小篠）今もパソコンの話がありましたけれど、データを見ると生協で買っているのが３割位、量販店で３割位。37％

に対して30％と言うことになっていて、アンケートを取るならどうして量販店で買う方が多いのかの理由をもうち

ょっと聞いてみたらいいかなと思います。

２年生に上がってきた学生の「建築都市コース」は設計製図で製図用具とかたくさん揃えなきゃいけないので、そのアイテムを決めて共同購入をしてもらっているんですけれど、特に最近、パソコンのスペックが悪すぎて、学部に移行した後に使えないと言ってくる学生が多いです。だからどうしても二台目を買わなきゃならない。というのは、GISとかリムとかそういうものを個人で使う状況なってきているんですね。そうすると、生協の推奨パソコンは、一般のパソコンレベルのスペックに終始していてる。汎用的なものを推奨しているところがあるので、そこを改善できると購買率が上がると思います。

安くてもスペックの良いものは、大手のメーカー品ですけれどソフトウェアがプリインストールされているのじゃ無い物であれば、スペックが高いけど値段はそんなに高くないものがありますので、その辺を使っていくと学生の負担は少なくなるかなと思います。ちょっとした情報ですがご参考になればと思ってご紹介いたします。

（齋藤）ありがとうございます。建築学科では「このスペックでは足りない」という情報をいくつかいただいていまして、それは北大生協として提案できない状態もあって「建築学科の方にはスペックが足りません」という情報は伝えているところです。先ほどご提案いただいたように、本当であれば「北大生協のサポートを受けられるという趣旨はこれです」と、それぞれの各学部に合ったものを提案できるというのが1番の理想だなと考えております。在庫リスクをどこまで負えるかを踏まえながら検討しようと思います。今は、汎用性が一番あるようなところ、一番需要がある所の機種を提案しているところは間違いないかなと思っております。

量販店との話で、価格を比較して生協じゃないところで買ったと言うのがあるんですけど、正直価格を比較するだけならそんなに遜色ないものになっているはずです。ただ、北大生協だけがメモリの高いものをあえて提案してリモート授業に対応できるスペックにしているところで、完全に並行して比較をされているわけでは無いというところが課題です。なぜ比較されているのかなと言うと、今のパンフレットの作りだと、スペックが1番最初に出ているので、学内できちっとサポートができているよという所まで、記事を追われてなかったりして他の量販店とのサポートの違いというのを打ち出せてないところが大きくて、結局は「価格と似通ったスペックを見るためのパンフ」とされているのが、今のところの分析です。

（小篠）そのわかっているところをどうやったら改善できるのかと言うところに行ったらいいですよね。在庫の事ばっかり気にしちゃうと、いろいろな種類を置けなくなっちゃうでしょ？それがネックになっていたりとか、あるメーカーだったらば安く仕入れられるとか、そういうものはあるんですよね？それならしょうがない話だと思うんですよ。でも「欲しいものは何だ」というところで、学生のニーズの方から入っていかないと多分買ってくれないと思います。ものを買ってもらうというのはその購買者のニーズをまず調査するところから始まると思うので。その辺のところと仕入れが噛み合うのか噛み合わないのかと言うところだと思いますのでその辺をもう少し追求していただければと思います。

（金川）学務部の方で情報を企画課に確認して、推奨スペックを出しています。それがベースになっているとは思います。

（小篠）それが合ってないんじゃないですかね？

（金川）小篠先生が言ったように学部の推奨するスペックの一覧があるといいんじゃないかなと思います。

（小篠）学務部と言うのは、１、２年生の教養を対象にしているだけの話じゃないですか。その先のことを誰か知ってるんだと言う話ですね。

（金川）それは各学部の教務委員長あたりに照会を出して、各学部の方で求めるスペックを教えて貰い、一覧にしたらいいじゃないですか？多分事務に聞いても誰も知らないので。

（小篠）先生に聞いて情報得ると。そういうものだったら４年間使えるよとか、卒業研究やる時にも、講座の研究をやるときにも充分耐えられるものを推奨してもらうというのがいいんじゃないでしょうかね。

（金川）学部が決まっている学生さんについては、２年生になったらこういうスペックがないとダメだからこっちにしようと言うような判断ができますね。

（小篠）そうしていただければと思います。

（坂爪）今の金川さんがおっしゃったところで言えば、教職員の組織委員とか、理事の先生とかいらっしゃると思うので、もう知らない人に聞くと、よりそういう人たちのネットワークを使ったら効率的に情報集まるのではないじゃないかなと思います。

質問ですが、7ページのPC関連のところで、50件相談があるというのは月でですか？学年の内訳というのはどうなっているのかわかれば教えていただきたいんですけど。先ほど卒論の質問があると聞いたんですけど、4年生で使っている人もいるのが結構いるんだなと思ったんですが、学年的なばらつきはどんな感じになっていますか？

（齋藤）すみません。まだ50件あるという所の把握まででした。改めてそういうプレゼンをしましたという報告もしたいと思います。

（坂爪）それも学部別にやるのが必要かなと。文系・理系を分けるだけでも必要で、４年生で質問をする人は文系だけだった、とかがわかるので、ちょっとここを整理していただきたいと思います。

２つ目の質問です。学部の２年生の理事の人がいれば聞いてみたいんですが、今年初めて２年生の講義を持ってびっくりしたのが、ほとんどの人がノートパソコンを開けながら授業受けている。今の１年生は高校の時にパソコンを買っちゃってる人がこれからどんどん増えてくるのでは？そうすると新歓の時にスルーしちゃって、いま小篠理事が仰ったように、学部の時に買い換えるというのが一番リーズナブルのようになっちゃうんじゃないかなという危惧があるんですが、その辺、肌感覚として２年生の方々がもしいらっしゃったら情報を１つ２つ教えていただければと思います。

（金川）私は高校生の時にノートパソコンを持っている人はあまりいないと思います。なので大学に入ってから授業などでキーボードを打たせるところからやらないとダメなので、情報の授業が大変だと聞いています。皆さんスマホで終わってしまうので、キーボードを使ってない状況です。

（田代）自分の話ですが、自分は高校の時からパソコンを持っていませんでした。

（野呂）北大の出願がネット出願になっていて、うちで使っていないパソコンではスペックが足りなくて、やはりネット出願だと言うところで高三の時にいちど買い、そのままそれで大学でオンライン授業を受けようとしたら充電が全然もたなかったり、Microsoftオフィス365が全然入らないのに焦って、授業開始前日に生協でこのスペックのパソコンを買いました。

（坂爪）高校時代のパソコンの持ち方のリサーチはすごく大事だと思うので、２年生の各学部に行くときにどうするかということも、各学部や各先生方の協力を得て、何か共同購入みたいなプラスαのメリットを持って、営業にいけるようなことを考えたほうがいいかなと思います。

（齋藤）今掴んでいる情報で言うと、今の高校1年生は、タブレットは自分用のものを持っている状態になっているはずです。それが自分のものなのか高校のものなのかは別として、ノートパソコンは全員が必ず持っているという状態にはまだなっていないのかなと言うところです。自分のタブレットなのかそうでないのかは、自治体によって違うようです。

（坂爪）分りました。実はキーボードの話と言うのは大きい？

（金川）必修の情報の授業で情報セキュリティーとか2時間ぐらいやっていたのですが、基本的な打ち込みの練習とかをさせなければいけないと言うので、どんどんどんどん情報セキュリティーの時間が少なくなってきて、もうなかなか教えるのは難しいという話も出てきていました。

●第２号議案　購買水産店の人材育成感への移転決定の件

（金川）41ページの購買水産店の資料の右側の新営業時間が10時から14時30分、その後22時まで無人店舗という事なのですが、人材育成館のコンセプトからすると、水産学部の関係者以外の人たちにも来ていただいて使ってもらおうというコンセプトがあります。無人店舗化になったときに一般市民の方が購入することは可能な作りに乗っているのでしょうか？

（鏡）　今後議論を重ねていきますが、今のところ想定はしていないです。無人店舗化する時間帯は、あくまでも学生証・職員証で管理をすることになります。例えばNTTデータが作っているようなスマホで入館から決済まで出来ますというシステムを導入する際はそうなりますが、基本的には学生証なり職員証で入館管理をする前提になっています。函館キャンパス事務部ともそこら辺は意見交換をしていまして、あと２年あるので今後詰めてはいきますが、もちろん人材側のコンセプトとしては理解していますが、一般の方の夕方以降の利用については今のところは経営効率化も含めて想定していません。

（金川）あそこは総合博物館の水産科学館が入ります。今はそんなに多くないですが、一般閲覧者が綺麗で見栄えが良くなったことによって来ることを想定すると、うちの博物館のショップで置いているものを置いてくれと言う話になってくるかもしれません。今は全く話は出ていませんが、将来的には総合博物館にある学部展示と水産博物館をオンラインで繋げて見られるようにするとか、いろいろやっていける事があることを想定したときに、水産に居ながら総合博物館資料が見られる、札幌に来なくてもと考えると、水産科学館が営業してる時間はお店をやっていただけるとありがたいなぁと思うので、追々相談させていただきたいと…

（鏡）　営業時間などは人の流れも変わってきますので、あと２年の中で議論して、最終的には開館の時点で決めればいいし、開館後もイベントの時は臨時で営業を延長するだとかそういう事は想定されると思うので、日常的に何時まで開けるのかというのはまた今後の議論の中で進めていけばいいかなと思っています。オリジナル商品についても、水産店のオリジナル商品が既にあって、更ににエルムプロジェクトの大学コラボの商品もあり、おしょろ丸の製品もあって、さらに人材育成館用の物とかいろいろな商品があって、それらをどう整理していくのかというのも今後の話なので、博物館の今のオリジナル商品はどうするのかもご相談の上ということになっています。お店が限られたスペースなので、どこまで何を置くかと言うのはこれから相談していくことになります。

（金川）了解です水産科学館館長の今村先生、何かございますか？

（今村）特に補足とかという事でもないのですが、以前にももしかしたらご説明させていただいたかもしれませんが、今博物館が入るというお話がありましたけれど、図書館も入ります。いわゆる MLA連携と言うものを実践する建物でして、Ｍがミュージアム、Ｌがライブラリー、Ａがアーカイブなんですね。そういった機能を持った建物ということになります。ですから、一般の方が今以上に水産学部のほうに足を運んで下さって展示を見て下さったりとか、修学旅行のお客さんも結構来てもらったり、外部の方の入館というのが見込まれる建物なのかなと思うんですね。立地としては、学生たちが講義を受けている建物の近くにありますので、学生も来やすい。そういうような環境になりますので、現状の生協の店舗よりも人がたくさん集まる環境にすることになりますので、お客さんがお店のほうに来ていただける。そんな風になって頂くのではないかなと思って、大いに期待しているところです。

（小篠）小助川さん達にお話しをした通りなのですが、いわゆるテナントとして入るだけを期待されているだけなのか、もう少し積極的に人材育成館というか、いま今村先生もおっしゃっていたけれど、３つの機能が合わさってくるようなところは札幌キャンパスにはないのですよ。北大の中では函館にしかないんです。そういう新しい複合的な機能を持った館を、主体としてマネージメントするのは生協じゃないと思いますが、それに参画するような提案的な店舗というのを期待されているのか、どっちなのかというのをちゃんと見極めてやっていかないと、期待されても困っちゃうよねというところもあるかもしれないし、全部荷が負えませんよというところになるだろうと思っていて、そこをすごく危惧しています。

「そんなところまで出来ませんよ、うちは売り上げ第一ですから。」という話で今の開店時間の話を決めていると思うんですよね。それはそうでしかないんだっていうのを言わなきゃいけない局面もあるし、「いやいやそうじゃなくて、今までやっている店舗と全く違うような店舗を企画・運営して、いろいろなサービスを提供していきたいんだよね」とか、札幌で売ってないようなものも含めてミュージアムグッズを充実させて、ネットショッピングで外の人に向かっても買ってもらうという話も含めて、幅広ですよね、考えていく方向はいろいろなことを考えられるんですけれど、２年あるから大丈夫ってタカをあまりくくらないで、2年をかけてじっくり店舗戦力を考えたほうがいいし、それを逆に今村先生や函館の水産科学館を企画しているチームの人たちに提案したりとか、そういう風にしてやっていった方が皆さんの期待には応えられるんじゃないかなと思います。「うちはテナントですから、そういうことはしません」とドライに割り切るなら今割り切っちゃった方がいいと思います。そんなふうに思ってこれからお付き合いしていったほうがいいんじゃないでしょうか？それじゃないと過度な期待を背負わされることになっちゃうかもしれませんよ。

（鏡）ありがとうございます。佐藤事務長とは去年から意見交流をさせていただきまして、その関係では専務含めて冷静に、こちらからの意見も聞いていただいて、小篠先生のご懸念も含め、今後コミュニケーションをとりながら進めていきたいと思っています。

（小篠）それで提案なのですが、どうしても期待はされるわけじゃないですか。新しい施設だからということで、ここでいろいろなことをやれるようにしたいんだよね、という期待は当然あるわけだよね。だけども生協ができることっていうのは限界があるわけじゃないですか。で、誰かと組むとか、ここの部分はここの事業者と組んでこういうこともできるかもという、そういう話の発展はないんですか？

（鏡）　先日の研究院長との面談では、現在の北大生協の厳しい経営状況をご理解いただきたい趣旨もあって、その説明を小助川専務からして、函館って地域の洋菓子店や珈琲店がけっこうあったりとかするので、そういう所とのコラボレーションについても検討したり、先日の小篠先生のアドバイスを含めて、大学との協力関係で小助川専務からお伝えしています。

（小篠）テナントだから自分で全部被ると言うのではなくて、そういうことを連携できるような可能性があるというその情報だけをちゃんと作って、大学にそれを売らないとダメです。「こういうことができるから、もう少しお金をください」とか「これくらいあればこういうことができるんです」と、大学の運営費から貰う位の勢いでやらないと、全部被っちゃったら元も子もないじゃないですか。その辺も含めて戦略を立てたほうがいいと思います。大学は期待してるわけ。やりたいわけですよ。何とかうまく水産の目玉にしたいわけです。それに対しては、これくらいの金があれば生協はこういう協力ができると言ってあげたほうがいいと思います。今までも全部受けて、生協の力の中で全部やるという様な事だけだとジリ貧になっちゃうので、そうじゃないやり方のビジネスで考えて欲しいなというのが、今ちょっとのやりとりの中でもそういう期待がすごくあるのがわかるから、それに答えられるようにするためにはどういうビジネスモデルにするのがいいかというのを本気で考える必要があります。

（坂爪）私も付いて行きましたが、最大の学びは、この施設の略称が(スイカミカン)と言うこと…

向こうの方は今も議論ありましたけど、とても期待が大きくて、帰りの電車の中で「言ったってプラスにならないよなぁ」って言いながら帰ってきたんですけど、まずどういうところを支援してもらうかと言うのが割と難しくて、一番のネックはもう入る場所が固定的に決まっちゃっていて、本来だったら戦略って言うならもうちょっとこの辺にこれくらいの面積でくれとか、そういうことを言いたかったところなんですが、人材育成館については出来上がったところでここに入ってくださいとしか言われてないので、割と限界があるかなと思って帰ってきました。生協の店舗の外側がフリースペースになりますが、そのフリースペースに本当に人が屯するのかっていうのが若干疑念があるんだけれども、割とフリースペースが広がっているところに面して店舗があるので、その辺は非常に細かい工夫の積み重ねで何とかフロアの中にちゃんと店があると言う一体感を出す努力をするしかないなと思ってきました。補足になっていませんが以上です。

（小篠）今そういうふうにおっしゃるのならば、どういうやり方であればもっとこういう形ができるのだよねと言う提案をなさってもいいのではないでしょうか？ここの２コマの中に押し込められて、そんなんでは経営ができないよということがもしあるのならば、こんなやり方だったらもっと変えられるんだけどっていう話をすればいいんじゃないでしょうか？

（坂爪）実際に今から畳２枚分よこせとかっていうのは無理なのですけれども、可能性としてはフリースペースのほうになにがしかのものを出張っていく余地は多分あるなとか思います。後は上下との連携などもどれくらい上から人が降ってくるか分かんないし、その辺はもちろん今分かる範囲の準備は当然進める事はしますけれど、開いて入ってみないと…

（小篠）ここはグッズの販売しかできないのですか？軽食の販売とかそういうのは販売できるんですか？

（鏡）現在の購買の商品構成でそのまま入ることになります。

（小篠）そうだとするならば、どこで飲食が可能なのかとか、どういうことができるのかって言うまでは聞いてないでしょ？

（坂爪）それはフリースペースがそうなるって言うふうに説明を受けましたけれど、実際にスリースペースで店舗で買ったものを食べるような…

（小篠）だからそれをやりたいと彼らは言っているのだから、どういう風な売り方をすれば気持ちよく皆がそこで食べてもらえるようになるのかっていう。例えば、飲み物の売り方とだとか軽食の種類や置き方をすればいいわけですよね。それを「こんなことが可能になるんですけど」と提案してみたらどうだろう？というのが私の言いたい事です。みんなで盛り上げていかないとこの育成館というの盛り上がらないと思うんです。

（小助川）小篠先生すみません。今その提案をしていかないとという話ですが、今回私たちが行って店内のイメージ動画を見せていただいて、こういうものができるんだなというのをイメージとして持って帰りました。こういうお店のイメージのものをまず作り上げて、コンビニかもしれないんですけど、その中に今までにないカフェのコーヒーを出せて、焼きたてパンが並んでて…それをフロアで召し上がって頂くっていうようなコンセプトを持ったものを、図面の作成をお願いしてるところも本格的なこういうイメージのものっていうのがちょっとないと、やっぱり什器やお店のカラーリングなどの詳細情報がないとなかなか作りあげにくい状況です。

（小篠）デザインの詳細については相談して決めていけば良いでしょう。だけどお店のコンセプトというのは今考えられるんじゃないですか、今小助川さんが言ったような形で依頼をすれば。例えば博物館の人たちは「ぽらす」みたいのができるのかなって思っている節もあるわけです。あれは博物館の持っているいろいろな要素やアイテムを色々活かしながらメニュー構成を考えてみたり、ミュージアムで食べられるような、他の生協の店舗では売ってないようなものを差別化で売ってみようと、そういうことをやっているわけでしょ？それをやって、結構お客さんが入っているわけです。そういったものをここでもやってくれたらいいよねというふうに思っているところはあると思います。その期待に100％答えられないとは思うんだけれども、10％でも20％でも応えようと思ったら、こんなことができるかもといったものを提案するというのが大事だと思います。今動画を作っているのは、それが100％決まりではないです。みんなの空間的なイメージを共有化するために設計事務所の方で作ってみたって位の話なわけです。だから、それを本当に作り上げていくのはこれから入居していく人と函館キャンパスのここを管理する人たちですね。なのでその人たちがこういう運営をしてみようとか、こういうやり方をすれば新しいものになるよねと言う話はもっともっとしていかなければいけないわけ。その時にここに入ろうとしている生協さんの店舗の考え方というのはすごく大事になってきますよね。それを少しでも考えて、密に函館のチームと打ち合わせしていくというのがよろしいんじゃないかなと思っています。今決まったものがあるとかそんなんじゃなくてこれから２年間に作り上げればいいんだけれど、アクションを起こさなければならなくて、入る側の方からアクション起こしていかないといけないんじゃないかなと思います。

（鏡）ありがとうございます。当初は水産キャンパスの方からはコンセプトの提案の資料とかも頂きながら、その中で検討してきました。当初はミュージアムショップだとかカフェだとかという希望があるという事は重々承知しておりますが、41ページにあるようになかなか難しいと言うことも申し上げているところです。先程から申し上げているように２年間ゆったり考えてるわけではなくて、小篠先生が仰っていたことを含めて、スピード感を持ってきちんとコンセプトを函館キャンパスの皆さんと話し合いながら煮詰めていきたいとは思っていますので、今日のところはご意見受け止めさせていただいて、移転について決定することの議決についてご了解いただければと思いますのでお願いいたします。

（小篠）いや、ここで聞いている皆さん方がちゃんと理解してくださるように、情報をもう少し加えたという、そういうところでご理解いただければと思います。

（鏡）ありがとうございます。

（金川）この図面は向こうからもらったものですか？

（鏡）そうです。

（金川）この図面に書いているものがそのまま入るとは限らないです。

（鏡）まだ当てはめてみただけなので、この話をしている時にも変わるという事はおっしゃっていたので、とにかく9月9日の工事の締め切りに向けての調整をしただけなので変わります。

（金川）図書館側や水産科学館側から意見を聞いて、実際に当てはめてみて、それで実際にいくらかかるかそれぞれ予算が足りないから譲歩をと言われている段階なのです。だから小篠先生が仰ったように、このフリースペースにも最低限何が欲しいと先に言っておいた方が、フタを開けたら「実は座るところが…」という話にならないように、先に今ちょうど企みを落とし込んでいっている真っ最中…

（鏡）さすがに共有スペースがなくなることはないのではないでしょうか

（金川）場所はなくならないですけど、コンセント2個を1個に変更してくださいというような話が来るというのをちらっと聞いているので油断は禁物です。

（鏡）9月5日ぐらいに設計の方々と水産の方、施設部点検の方と専務で調整をさせていただいて、その時も「ドアの色は何色にしますか？」という話だとか、色々と出す出さないという細かい話もしているところなのですが、9月9日確定だと盛んに言っていたんですけど、まだ確定はしてないのでしょうか。

（金川）図書館と水産科学館と本体部分の3つの金の奪い合いなので、どこを優先するかと言う話で、どうも水産科学館は分が悪いというか、図書館の力が強くて、水産科学館は什器とかいろいろなもののグレードを落とさなければならないのかと言うような雰囲気も感じていますなので、がんばってください。

（鏡）我々も情報収集しながら、そういうことであれば緊張感を持って進めたいと思います。今村先生からも情報提供頂きながら進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

（坂爪）続きいいですか？水産の休憩スペースの画面見せていただいた時に、実はここはなんだか人があんまり溜まりそうにないなと思ったんです。というのは、まだテーブルが何かも置いていないのでただ伽藍洞のところに階段の段差のところに学生が座ってるみたいなのがあって、ほっとくと金川さんがおっしゃったようにそれだけで終わっちゃう。なんだけれども、予算も減っているしやっぱりフリースペースを我々生協の店舗側として使い勝手がいいようにするには、こうしてくれというのを今から言っておかないと。そこは大事だというの僕もそう思いました。

●報告事項６　理事会室報告

（金川）質問ではないのですが、75周年の記念講演会学内の周知はされてないのでしょうか。

（鏡）ポスターを各店に配り、ホームページと公式LINEアカウントなどのSNSの宣伝をしていますが、浸透はしていないかもしれないですね。

（金川）生協組合員の方と、70%程度はいるので委員会の以外の方に周知はー

（鏡）教職員総代にはメールを直接送ったりしています。

（金川）私のところには何も届いていません。総代が働いていない？

（鏡）総代さんは直接出てくださいと呼びかけています。広く宣伝を呼びかけていなかったの工夫してみます。

（金川）理事長名で山口理事宛に出して学内への周知をお願いをしてはどうか。

（鏡）一応チラシを秘書課のほうに30部くらいお渡ししました。

（金川）やっぱり生協の創立75年なのに、委託を受けている親方の組織に対してこういうことをしますって言いますよね、普通は。それはちゃんとしたほうがいいんじゃないかと思うので。

（小助川）10月5日頃までに要路配布を行います。これが各理事のところに総長含めて一部ずつ封筒に入れたものを配布します。

（鏡）一応、学務部学生支援課の能代係長はご存じです。

（齋藤）周知をたくさんすること以上に、どういう経路で周知をするかというのが大切になってくるんだよという話だと思ったので、ただ周知するということだけじゃなく誰経由でその情報を伝えるかということで、75周年の拍が付くという言葉はちょっとあれですけど、そういう催し物なのかなと感じました。

（金川）一般的な、事務的なルートで全学に周知する。学務部の方から各部局の長、もしくは各部局の事務宛に北大生協からこういうお知らせが来たので全額に周知お願いいたします、という形で展開すると良いと思います。

（鏡）後ほど、金川理事にご相談させていただきます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上